



海への想い、浜風に乗って

『ハマひら』

『ハマひら』は2017年から七ヶ浜町菖蒲田浜で活動している、菖蒲田浜を東北一カッコいいビーチにするアートプロジェクト「SEVEN BEACH PROJECT」の一環としてはじまりました。主催者の喜多直人さんは、コロナ禍でも菖蒲田の海を身近に感じてほしいという思いから、「海と自分」をテーマにシンボルマークを描くワークショップを今回オンラインで開催しました。

たがさぼスタッフが参加した回は、3組の家族が参加。喜多さんが船長役となって海の旅へと出発です。参加者それぞれが海への想いや思い出などを語りつつ、ふくらませたイメージを描いていきました。「自分たちの手で海をきれいに」「きれいな海で泳ぐ魚」など、旗に描いたものに関するお話も聞くことができ、身近な地域資源について見つめなおす良い機会となりました。

画面越しではありますが、七ヶ浜の海に来たことのない遠くの人とも出会い、語り合いを通して参加者同士の交流が広がるなど、WEB会議ツールによる活動の新たな可能性を感じました。



SEVEN BEACH PROJECT
ウェブサイト



旗を描くヒントは「海への想い」や「海での思い出」。そう熱く語る船長の喜多直人さん。



完成した旗は、多賀城駅前展览展示されました。参加者の想いがひらひらと風にはためきます。

ヒント from たがさぼPress

たがさぼのブログから、地域づくりに役立つ記事をご紹介します!

2020年7月4日(土)掲載 / 内閣府「令和元年度 市民の社会貢献に関する実態調査」の結果が公表されています。

2020年7月9日(木)掲載 / 災害に備える『新型コロナウイルス 避難生活お役立ちサポートブック』

2020年8月1日(土)掲載 / NPO(市民活動団体)のための新型コロナウイルス対応お役立ちサイト

“たがさぼPress”とは?

たがさぼスタッフによるブログ。興味がわいたら「たがさぼPress」へ!
<https://blog.canpan.info/tagasapo/>



“tag”のアンケートのお願い

今後の誌面づくりの参考にしたいと思いますので、ぜひご協力をお願いします!
また、以下のような情報もお待ちしております!

- 自分たちの団体を取材してほしい
- ユニークな活動や、地域のためにがんばっている団体・人を知っている
- こんな話題を取り上げてほしい

たがさぼからのお知らせ

たがさぼが企画する「一歩ふみだすきっかけ」をご紹介します

出前 活動お役立ちZoom講座

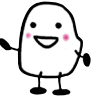
新型コロナウイルス禍において、NPOや自治会・町内会などの活動の仕方も変わってきています。中でも、実際に集まるのではなくWEBを使った会議が注目されています。たがさぼでは、WEB会議ツールのひとつである「Zoom」の使い方についての講座を団体向けに実施します。
試しにたがさぼで「Zoom」を体験してみませんか? まずは気軽にご相談ください。

時間 60分程度
対象 Zoomを活動に取り入れたいけど不安があるというNPOや自治会・町内会の方
会場 要相談(たがさぼでも可)
費用 無料
問合せ 022-368-7745(多賀城市市民活動サポートセンター)

オンラインワークショップにチャレンジ!

この度の新型コロナウイルス禍を受けて多賀城市が企画した「WEBアートワークショップ実施促進事業」。NPOを含め22の団体やアーティストのみなさんが、ステイホームの中でもアートに触れる時間を提供してくれました。今回は、たがさぽスタッフが参加したワークショップのレポートをお送りします。

直接会えなくても、
アートの心は伝わるね



Report 1

多賀城をコトバでのこす 俳句でのこす

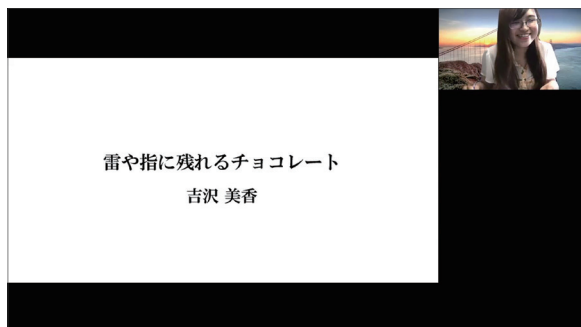
「壺の碑」全国俳句大会実行委員会では、子どもたちの発想を育て多賀城の風景を俳句で残す目的で、俳句のWEB講座とオンライン句会を開催しました。講師は日本を代表する俳人・高野ムツオさんと小松温美さん(お二人とも多賀城市在住)。多賀城の小・中・高校生・大学生15人が参加しました。「あやめ」「かたつむり」「七夕」など6~7月の題材をもとに俳句をつくり、講評しあいました。今回は初めて「Zoom」を活用して講座を開催したのですが、参加者の表情や声、俳句の言葉の力は私にも生き生きと伝わってきて、とても充実した時間となりました。オンラインでの句会は、遠くの地域の人との交流がその場でできるメリットがあります。遠くの県の人たちと句会を開催したり、違う地域の句会に参加することで、俳句を通しての交流や活動が広がると思いました。

参加した中学生、高校生の中には小学生の頃から『「壺の碑」全国俳句大会』に投句していた人も多いとのこと。26年にわたる活動が子どもたちの感性を育て、文化の担い手を生み出し続けていると感じました。

WEB講座とオンライン句会については、YouTubeでも閲覧できます。詳しくはたがさぽブログで紹介しておりますので、こちらをご覧ください。
(右記の二次元コードよりアクセスください)



今回講師を務めた「壺の碑」全国俳句大会実行委員長で、日本俳句界の重鎮である高野ムツオさん(右)、事務局の小松温美さん(左)。高野さんは俳句界の最高賞「蛇笏賞」を2014年に受賞しました。



参加した大学生の美香さん(多賀城市在住)は高校時代、毎年高知県で開催の「俳句甲子園」に出場していました。

Report 2

多賀城の魅力を歌にのせて

多賀城市在住のミュージシャン・アサノタケフミさんによる「多賀城のうたを一緒につくろうワークショップ」に参加しました。WEB会議ツール「Zoom」を使って、参加者が多賀城の魅力を七五調のフレーズにするという内容です。私がつくったフレーズは「南宮神社 田の中に」「末の松山 伝説に」。最後に参加者それぞれのフレーズにアサノさんが即興で曲をつけてくれました。

当日、私のパソコンのカメラが不調だったのですが、私の表情や身振りが他の参加者に見えない分、話したい時には挙手マークを表示する機能を使ったり、文字を表示するチャット機能で言葉を補ったりするなどの工夫をしました。アサノさんも「大丈夫ですよ～」とフォローしてくれたので安心できました。

アサノさんは、「みんなが想う多賀城ってどんなまちなんだろう」ということを、作詞というかたちで語りあうことができれば楽しいのではないかと、という想いから今回のワークショップを行いました。今の多賀城市民が想う多賀城を言葉として残していきたい、と話してくれました。



アサノタケフミさん。
「tag」12号でも活動をご紹介しています。

アサノタケフミさんのウェブサイト

(下記二次元コードよりアクセスください)
※YouTubeチャンネルへのリンクもあります



オンラインツール、活用してみませんか

これまで、時間を合わせる事が難しい・会場が遠いなどの理由でイベントに参加できなかった人たちが、オンラインを活用することでイベントに参加しやすくなりました。オンラインより対面の方がやりやすい場合や、ツールの使用にあたって不安などもありますが、オンラインだからこそできることが今回のレポートからわかりました。ぜひ活動内容に応じて、さまざまなツールやしくみを活用し、活動の幅を広げてみてはいかがでしょうか。

前号でもお知らせしました通り、tagの発行形態の見直しを行っています。リニューアル号は、12月発行です。お楽しみに!

What's? //



「tag」には、多賀城(tagajo)の頭3文字、みんながタグを組んで地域をつくる、多賀城に新しいタグ(価値)をつける、という意味が込められています。



@tagasapo
たがさぽのツイッターへのフォローをお願いします!



<https://www.tagasapo.org/>
たがさぽのホームページはこちらへアクセス!